SGT−078

2021 RACE REPORT

AUTOBACS SUPER GT Round 6

AUTOPOLIS GT 300km RACE

2021年10月23日（土）～24日（日）

オートポリス（大分県日田市）

#52 埼玉トヨペット GB GR スープラ GT

■■■■ 3戦ぶりの入賞。表彰台まであと一歩の4位フィニッシュ ■■■■

土曜日の天候は晴。GT300のエントリー台数は29台です。公式練習は9時15分から行われ、吉田選手がコースイン。硬さの異なるタイヤを試しながら車体の調整を行います。2回の赤旗中断を挟み、川合選手に交代。両ドライバーともにタイヤのグリップ不足を訴えており、タイムは伸び悩んでいましたが、時間の経過とともに気温と路面温度が上昇。セッション終盤にトップタイム（1分43秒133）をマークし、確かな手応えをつかみました。予選はAとB、2組に分かれて行われ、GRスープラGTはB組に出場。ドライバーは川合選手です。Q1突破を最優先に、柔らかいタイヤを装着してコースイン。川合選手は4周目に1分42秒752をマークし、順位は2位。3戦ぶりのQ1突破を果たしました。約30分後に行われたQ2。吉田選手は決勝を見据え、硬めのタイヤを履いてコースイン。4周目に1分42秒727をマークし、3位の好位置につけました。ここ2戦、予選での不完全燃焼が続いていただけに、ピットの雰囲気は最高潮です。

決勝結果（GT300）

#52 埼玉トヨペット
Green Brave GR スープラ GT
（吉田広樹／川合孝汰）

決勝：4位

（61周、2時間05分12秒187）

予選：3位
（Q2 3位、1分42秒727）

日曜日の天候は晴。チームはスタートドライバーに川合選手を起用。抽選により Q2 で使用したタイヤを履いてスタートすることになり、タイヤ無交換で優勝を狙います。2周のフォーメーションラップ後、300kmの決勝がスタート。川合選手は後続をおさえきり、3位でオープニングラップを終了します。川合選手のペースはランキングトップで2位走行中の#61BRZと同等。コンマ5秒差以内で周回を続け、オーバーテイクの機会をうかがいます。しかし、9周目にGT300のアクシデントが発生。FCYが導入され、翌周からセーフティカー（SC）の先導に切り替わります。16周目からリスタート。川合選手は再び#61BRZにプレッシャーをかけますが、18周目に再びアクシデント発生。2回目のSCが導入されます。これにより#61BRZを攻略するタイミングを失ったばかりか、一時は11秒以上もあった4位とのマージンがリセットに。24周目からリスタートとなりますが、すでにレース距離の3分の1を消化しており、川合選手は1周走ってピットイン。チームは川合選手のインプレッションをもとに、タイヤ無交換で最後まで走るのは難しいと判断しており、給油とタイヤ交換を行い、吉田選手に交代します。吉田選手は14位でコースに復帰するも、冷えたタイヤに熱が入るまでの間に2台に抜かれ、16位にポジションダウン。しかし、30周目には予選4位スタートの#65AMG、さらに34周目には直線スピードに勝る#11GT-Rをパス。さらに上位陣のピットインにより、41周目に4位まで順位を回復します。前を行くのはレース序盤に戦った#61BRZ。吉田選手は#61BRZとの差を詰め、44周目に再びコンマ5秒以下となりますが、タイヤの摩耗が進行しており、仕掛けるほどのアドバンテージはありません。吉田選手はそれでもあきらめずにプレッシャーをかけ続け、一時は横に並びかけるシーンもありましたが、#61BRZと0.299差の4位でチェッカー。表彰台への登壇は果たせなかったものの、3戦ぶりの入賞を記録し、終盤戦につなげることができました。

GT300 決勝結果

順位	車名（車両）	周回数
1位	TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT（トヨタ GR SPORT プリウス PHV）	61
2位	K-tunes RC F GT3（レクサス RC F GT3）	61
3位	SUBARU BRZ R&D SPORT（スバル BRZ GT300）	61
4位	**埼玉トヨペット GB GR Supra GT（トヨタ GR スープラ GT）**	**61**
5位	GAINER TANAX GT-R（日産 GT-R NISMO GT3）	61
6位	グッドスマイル初音ミク AMG（メルセデス AMG GT3）	61

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで（出走29台）

©2021 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

DRIVERS VOICE

吉田広樹選手

（予選後）公式練習のスタート時のコンディションと、川合選手が乗った時のコンディションが違いすぎて、そのせいでタイヤ選択に迷いが生じ、迷ったまま予選に出場しました。アタックはそこそこまとまったという感じですが、ギリギリ取りこぼしのないところにつけているので、悪くないと思います。マシンが重たい割には上位につけているので、そういう意味ではサーキットの特性にマシンがマッチしているのかなと思います。

（決勝後）メカニックが最短時間でコースに送り出してくれました。頼もしいし、うれしかったですね。3 分の 2 ぐらいの周回数が残っていたので、かためのタイヤを選んだのですが、アウトラップがつらいことはわかっていました。温めながらプッシュしたのですが、先にタイヤ交換していたチームとぼくの後ろでピットアウトしたチームに抜かれてしまい、その順位を挽回するためにタイヤを使ってしまいました。#61BRZ に追いつくのが精一杯でした。

川合孝汰選手

（予選後）まずは確実に Q1 を通そうということで、ソフト目のタイヤを使いました。無理せずアタックができ、タイムも出たので良かったと思います。もっとプッシュしたら力が入ってしまったかもしれません。ここまで来たら、やっぱり前のグリッドからスタートしたいですし、そのメリットはいろいろあるコースです。吉田選手に 1 つでも前のポジションで帰ってきてもらえればと思います。

（決勝後）フォーメーションラップで頑張ったのですが、なかなかタイヤのグリップが出なかったです。スタートでも加速が鈍ってしまいライバルに抜かれかけたのですが、耐えられたので良かったです。#61BRZ とは速いところとそうではないところが違っていて、第 2 ヘアピンまではぼくらの方が速いのですが、後半の上り区間は#61BRZ の方が速いので、テールトゥノーズに持ち込むことができませんでした。タイミングを見ながら仕掛けようと思っていたら、セーフティカーが出てしまいました。あのセーフティカーは余計でしたね。

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	61	R&D SPORT	65
2 位	56	KONDO RACING	54
3 位	244	Max Racing	54
4 位	60	LM corsa	47
5 位	11	GAINER	47
6 位	65	K2 R&D LEON RACING	46
7 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	46

トップ 7 まで

PARTNERS

アルパインマーケティング株式会社

株式会社エヌ・ティ・コーポレーション

株式会社 Team Iwakiri Japan

埼群スリーボンド株式会社

株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY

トヨタモビリティパーツ株式会社

株式会社ドーム

株式会社デイトナ・インターナショナル

株式会社ハッポーライフ彩生

※50 音順

【次戦予告】 第 7 戦は 11 月 6 日〜7 日　ツインリンクもてぎ（栃木県）

©2021 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.